

眼科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

代表的な眼疾患について、基本的な診断・治療内容を理解できるようにする。

II 行動目標 (SBOs)

1. 眼科臨床に必要な基礎的知識 を身につける。
解剖、組織、発生、生理、眼光学、病理、免疫、遺伝、生化学、薬理、微生物、衛生、公衆衛生、医療統計、失明予防等
2. 眼科診断技術を養い検査を行う。
視力検査、視野検査、眼底検査、眼圧検査、眼位検査、眼球運動検査、両眼視機能検査、瞳孔検査、屈折検査、調節検査、隅角検査、細隙灯顕微鏡検査、涙液検査、蛍光眼底造影検査、電気生理学的検査、画像診断（超音波、X線、CTスキャン、MRIなど）など
3. 眼科治療技術を身につける。
基礎的治療手技（点眼、結膜下注射、球後注射、ブシー、涙嚢洗浄など）、眼鏡およびコンタクトレンズ、伝染性疾患の治療および予防、眼外傷の救急処置、急性眼疾患の救急処置、眼科手術、手術患者の術前および術後処置など。

III 方略 (LS)

1. 指導医または上級医とともに入院患者の担当医となり、受け持ち患者の診療に従事する。
2. 病棟回診に帯同し、迅速に受け持ち患者以外の診療の概要を理解する能力を向上させる。
3. 指導医・上級医のもとで、外来新患患者の診察、検査指示を行う。
4. 助手として手術に参加する。

IV 経験すべき疾患

1. 白内障
2. 緑内障
3. 結膜炎

V 評価(EV)

1. EPOC による評価を行う。
2. レポートの提出により評価を行う。（視力障害・視野狭窄、結膜の充血）

眼科研修スケジュール

月曜日 手術の見学及び介助（終日）

入室時の患者への声かけ

バイタル確認（心電図、血圧計、酸素飽和度、搬出時血糖）

手術眼の確認

（患者に口答、術前の前腕につけたネームバンドとこめかみに貼ってあるシール）

麻酔（点眼、テノン嚢内、テノン嚢下、球後、瞬目、浸潤）法の学習・習得

術前処置（眼部皮膚、角膜、眼瞼結膜及び球結膜の消毒・洗浄）の学習・習得

眼球解剖の学習

各手術における介助者及び術者としての手技の学習・習得

火曜日 外来診察

午前：問診 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、視力検査、眼圧検査、隅角検査

術後患者の診察、処置、点眼指導

午後：蛍光眼底造影検査、光干渉断層計、眼軸長検査、エコー検査

電気生理学的検査、斜視弱視検査

手術説明

レーザー治療の見学・実践

眼部注射（結膜下、テノン嚢下、硝子体内）の見学・実践

各外来手術（翼状片、麦粒腫、霰粒腫、新生児鼻涙管閉塞症）の見学・実践

水曜日 外来診察

午前：問診 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、視力検査、眼圧検査、隅角検査

術後患者の診察、処置、退院指導

午後：蛍光眼底造影検査、光干渉断層計、眼軸長検査、エコー検査

電気生理学的検査、斜視弱視検査

手術説明

レーザー治療の見学・実践

各外来手術（翼状片、麦粒腫、霰粒腫、新生児鼻涙管閉塞症）の見学・実践

木曜日 外来診察

午前：問診 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、視力検査、眼圧検査、隅角検査

午後：蛍光眼底造影検査、光干渉断層計、眼軸長検査、エコー検査

電気生理学的検査、斜視弱視検査

新規入院患者の診察、術前指導、手術説明

レーザー治療の見学・実践

眼部注射（結膜下、テノン嚢下、硝子体内）の見学・実践

各外来手術（翼状片、麦粒腫、霰粒腫、新生児鼻涙管閉塞症）の見学・実践

金曜日 手術の見学及び介助（終日）

入室時の患者への声かけ

バイタル確認（心電図、血圧計、酸素飽和度、搬出時血糖）

手術眼の確認

（患者に口答、術前の前腕につけたネームバンドとこめかみに貼ってあるシール）

麻酔（点眼、テノン嚢内、テノン嚢下、球後、瞬目、浸潤）法の学習・習得

術前処置（眼部皮膚、角膜、眼瞼結膜及び球結膜の消毒・洗浄）の学習・習得

眼球解剖の学習

各手術における介助者及び術者としての手技の学習・習得